



NPO法人ジャパンデンタルミッション

海外活動報告書

場所 フィリピン共和国・カオハガン島

期間 2012年2月7日～2月12日

参加メンバー

(上段左から) 定政 洋美(D) 川野 弘道(D) (工藤さん) 長谷川 智哉(D) 中辻 秀一 (T)
中窪円香 (V) 河内 光明 (T) 大西 富子 (H) 早川 成人 (D) 上崎 秀美(D)

(下段左から) 田中 沙由里 (H) 奥山 由貴子 (H) 福井 あずさ (H) 川村 章子 (V)
沢田宗久 (D) 清水 絢子 (D) 中務 裕子 (H)



活動内容

2月7日（火曜日）

今回は、関西空港からの出発隊のみでした。朝7時半に集合して出国、マニラ空港で乗り継ぎ、セブ島空港へ。

天気は良好。その後、マクタン島より船に乗り換え、19:30頃にカオハガン島に到着した。満ち潮であったため、海の中を歩くことなく到着できた。

夕食をとり、自己紹介を兼ねた現地ミーティングを行い、翌日からの活動の要点、生活での注意事項などの打ち合わせを行った。今回は、バランガイホールの準備、電気・水道・コンセント・機材の準備などは明朝、診療前に行うこととなった。

前日に、近方の島、ミンナダナオ島でM6.9の地震があったとのことであったが、地震の影響はほとんどなかったとのことだ。

2月8日（水曜日）曇り時々晴れ

明け方までの雨が上がり、晴れ間が見えてきたところで診療初日を迎えた。朝食時に軽いミーティングを行った後、診療所へ向かう。

まずは、診療所となるバランガイホールでの機材の準備や消毒、電気・水道・コンセントの確認を行った。今年は、昨年とは違い、診療当日にこの準備を行ったため朝の診療開始が少し遅れてしまったが、全員で協力のもと急ピッチで準備を行い、診療を開始した。初参加者が多く、皆、これから始まる診療を頑張ろうと目を輝かせていた。

10時ごろより、診療を開始した。患者はまずはDr 沢田によるチェックアップを受けた上で、治療方針が決定される。配当され、順次、患者の治療にとりかかる、という流れだ。

今回も午前中は、義歯印象がメインとなり、DrやDHみなが対応していく。同時に、抜歯、抜歯後義歯修理（増歯）などの治療が入ってきた。患者でホールの入り口はごった返し、スタッフがそれぞれ、自分のできることを探し、協力して治療を進めていった。

今回の義歯作製はDTが2名ということで10床までにする、と前もって決まっていたが、やはり、義歯作製を希望する患者が多く断るのは心苦しい！！とのDTやDrの気持ちから、結局12床の印象採得となった。

初参加メンバーもそうでないメンバーもみな表情はとても生き生きとしており、状況を理解しながらそれぞれが自分のできることを探して取り組んだ。

午前の診療はあっという間に終わり、スタートが遅かったせいもあり若干時間が押したが、カオハガンハウスで昼食と軽いミーティングを行い、午後の診療となった。午前中に採得した印象をもとに、さっそく咬合採得、義歯修理やリベース、押し寄せる痛みのある患者の抜歯の治療がメインであった。

並行して、DH大西が中心となって小児の口腔内の追跡調査である口腔内写真の撮影と模型採得も行っていった。しかし、追跡調査も8年目となってきており、進学や就職で島を

離れている子供もおり、島に帰ってくる週末まで作業が延長されることが予想された。

午後痛みがあるから抜いてほしい。というような急を要する抜歯を希望する患者様が多かったため、DHやVoによる器具の消毒への動線の確保を試行錯誤しながら診療を進めた。ある程度、手際よく診療を進める流れができ、初日の診療を終えた。

夕食をとった後、初日の反省などのミーティングを行った。明日は学校検診やドネーション、染め出しとTBIがあるため、メンバーを決定し、メンバー内でも活動の流れを確認した。



2月9日（木曜日）曇り

夜中に降り続いた雨の影響で涼しい朝を迎え、診療現場となったバランガイホールはどこかからの雨漏りのせいか、水浸しとなってしまった。

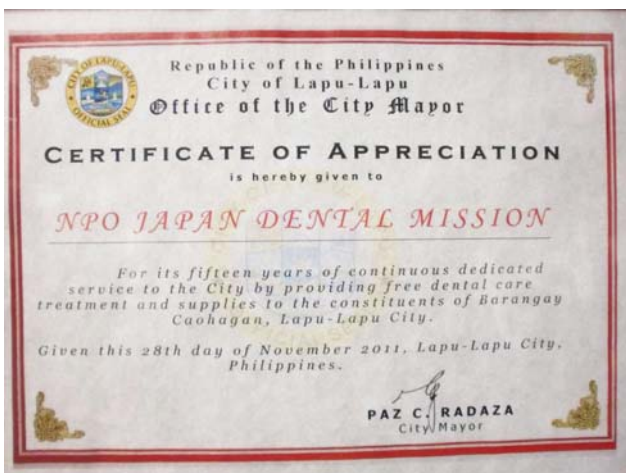
村の少年たちやエマ、トッペルら現地スタッフが手伝ってくれ、ホールの清掃を行う中、治療が始まった。診療所では、義歯の咬合採得、部分床義歯の装着、抜歯充填治療がバタバタと進められている中、午前中、この日は小学校での検診もあった。DrとDHで小学校を訪問した。100人以上生徒がいる、とのことだったが、検診があるため来なかった生徒も多々いるとのこと・・・実際は93人の検診を2チームに分かれて行った。治療が必要と判断した患者が52人おり、そのままVoとともにバランガイホールへ一緒に行き、治療を行う、という流れをとっていたが、どこかでトズラした生徒が6人いた！！そのため、

実際は46人が治療となった。充填処置、予防填塞、乳歯抜歯など、午前中は小児の治療を優先し、大人の方には午後の治療に回ってもらうようお願いする場面も見られた。

また、Dr 沢田は、崎山さんとともにラプラプ市長を表敬訪問し、市長よりJDMの活動、及び、セイコーエプソン労働組合の寄贈に対して、感謝状をいただいた。昼食の際に、全員に感謝状が披露された。活動に対して、このように評価していただけることに感謝の気持ちでいっぱいになった。

午後は歯ブラシや画用紙などのドネーションを行った後、DHが中心となり海での子供たちの染め出しとTBIを行った。DHのTBIを受け、子供たちはキラキラとした笑顔でブラッシングをしていたとのことだ。

診療室では、残ったメンバーがそれぞれ、抜歯、充填、義歯治療に走り回った。午後も診療所スタッフが少なくなったため、みんなが駆け回って診療にあたった。無事に、定刻過ぎに診療は終わり夕食。その後は恒例のミーティング。この日あたりから、体調不良のものも見られた。



2月10日（金曜日）晴れ

今回は、天候不良の日が多い中、この日は朝から晴天で青空が広がっていた。明日は片付けがメインとなるので、本日は治療が最終日。義歯装着や予防治療がメインになると予

想された。

午前中は、予想通り、義歯装着がメインで、ほか、比較的口腔内の状況が良い患者の受診が多く、スケーリングや TBI、CR 充填や予防充填処置が多く見られた。

午後からは比較的、患者が少なく緩やかな時間が過ぎて行ったため、一部のメンバーは村へ繰り出し、住民へのブラッシング指導を行った。同時に、少し島民たちの生活にも目を向けると、子供たちは、甘い糖分の多そうなお菓子を食べている姿を多く見受けられた。日本では、おやつ時間は決める、食べたなら磨く、など生活習慣からくる齲蝕予防の指導も行っているが、ここではまだそのような意識はないことがわかる。TBI を行おうとする我々の姿を見ると逃げ出す子供たちもいたが、中には自ら近づいてきてブラッシングを受ける子供、歯ブラシ欲しさにしゅしゅブラッシングを受ける子供、泣きながらブラッシングを受ける子供など様々ではあったが、少しでもブラッシングの気持ちよさを知ってもらい、生活の中で習慣となっていけばいいのだが・・・と思った。

夕方ころからは、バランガイホールの横の広場で住民たちが大きな音量の音楽とともにダンスパーティをしており、その中で戯れながらブラッシング啓蒙も行った。

また、2月9、10日を通して、村では子供たちに向けて映画の上映会を行った。

この日は、カオハガンハウスの配慮により、たこ焼きも開催された。日本とは異国のフィリピンで食べるたこ焼きは電圧のせいかなかなか焼き色がかかず、皆で夢中になって焼く姿が印象的であり、一味違っておいしく感じられた。

この日も体調不良のものも見られたものの、無事に一日を終え、夕食後はミーティングを行い、最終日の診療、片付けや文化交流などの流れを確認した。診療をしっかりと行える3日間は現地スタッフであるトッペル、エマ、マイケル や、青木さんの協力もあり無事に終えることができた。



2月11日(土曜日)曇り時々雨(肌寒い一日となった・・・!)

9:00より荷物の在庫管理調査とパッキング。12時まで全員総出でそれぞれ手分けして、在庫チェックをした。その間に、義歯装着や調整を行う。また、Dr 沢田とVo 2名によって並行して、運動会の準備も行い12時には来た時よりも美しく!!を目標にバランガイホールの片付けと清掃作業がほぼ終了した。

昼食後は15:00までフリータイム。あいにくの天候のため、シュノーケリングや海

釣りには出られなかったのだが、みなそれぞれ、島での最後の自由時間を満喫した。

その後は恒例の大運動会！プログラムは、リレー・おたまリレー・玉入れ・綱引き。子供たちの笑顔が広がった。競技終了後は、子供たちへ歯ブラシのプレゼントを行った。

夕方は難破船での慰労会。天気も回復し、きれいな夕焼けとともに、島の子供たちも来てくれ、活動の疲れを癒した。

夕食後は最終ミーティング、本日の治療や活動の報告、最後、ひとりひとりの反省や感想、Dr 沢田による総括のコメントをいただき、メンバーで過ごす最後の夜を楽しんだ。



2月12日（日曜日）朝まで土砂降り、のち雨

崎山さんをはじめとするカオハガンハウスの皆様のご厚意により、6時半から朝食をいただき7時半出発となった。

引き潮のため遠浅の海を数百メートル、雨の中を歩き、小舟に乗り込み数百メートル。やっとボードへの乗船となった。ぐるりと回って1時間の航行となったが無事にセブ島空港に到着、行きと同じくマニラ空港で乗り継いで関西国際空港への帰路となった。

体調不良なものも多く、帰りも飛行機内、空港にてアクシデントが発生したが、無事に関西空港にて全員での集合写真を撮影の上で、それぞれ家路へとついった。

初日より、Dr 沢田が言っていた「ボランティアにおける、かきくけこ」。

- か 感謝する
- き 協力する
- く 工夫する
- け 健康である
- こ 行動力

各メンバーそれぞれが、自分なりにこの言葉を意識しながら6日間の活動を無事に終えることができた。



総括

リーダー・上崎秀美

2012年2月 カオハガン

2月7日から12日まで16名（Dr 7名、DH 5名、DT 2名、Vo 2名）で活動してきました。

今回潮周りは、悪く往復とも長時間の船でしたし、帰りはずぶ濡れの風雨のためみなさん疲れたのではないのでしょうか？また、いつものように義歯作成を行う際は、全員の希望にそえず断るケースの多いことが非常に心苦しく、2名の技工士さんの負担も過重なものになり大変でした。ご苦労様でした！！

後半 診療の合間に、怖いもの見たさに寄ってくる子どもたちに、歯ブラシだけ、と行って座らせ、術者みがきをみんなでやってみました。意外と子どもたちは、おとなしく開口し磨かせてくれました。

すこしずつでも、歯磨きが辛い、めんどうなことでなく 気持ちよく、すっきりし、つるつる感を理解できるように持って行けたら、そして自分の身体を自分で守る一助になれば、関係者冥利に尽きるのではと思います。

最終日、天候不順ではありましたが 運動会は粛々と 全員の協力のもと 盛會に終わり無事終了いたしました。

滞在中発熱数名、帰路機中体調不良、帰国時健康相談に引っかかるなど ハプニングは

ありましたが、全員無事に開空ロビーにて 解散式をし、帰途につきました。いつものことながら、全員のサポートのもと無事ミッション遂行できたことを感謝いたします。

ではまた次の機会に

データ

治療結果

	8日	9日	10日	11日	合計
抜歯	84本	64本	23本		
CR	14本	31本	28本		
セメント	14本	72本	30本		
SC	4人	10人	14人		
TBI		2人	9人	1人	
義歯修理	5床	5床	2床		
リベース	7床	2床	2床		
検査のみ	1人		3人		
義歯新製(PD)	12床				
義歯印製(FD)	6床				
義歯装着 咬合調整			4床 1人	7床	
合計人数	53人	90人	47人	5人	195人

島別受診者	8日	9日	10日	11日	合計
カオハガン	30人	61人	38人	2人	
パンガナン	1人	3人	1人		
サンタロッサ		3人			
バンドノン	20人	23人	6人	3人	
セブ	2人		2人		
合計	53人	90人	47人	5人	